

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	15-121	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
The Association of Low-To-Moderate Alcohol Consumption with Breast Cancer Subtypes Defined by Hormone Receptor Status. 低-中等度アルコール摂取とホルモン受容体発現による乳癌サブタイプとの関連		
執筆者		
Strumylaite L, Sharp SJ, Kregzdyte R, Poskiene L, Bogusevicius A, Pranys D.		
掲載誌		
PLoS One. 2015;10(12):e0144680. doi: 10.1371/journal.pone.0144680.		
キーワード		PMID
アルコール、乳癌、サブタイプ、ホルモン受容体		26674340
要 旨		
<p>目的： アルコール摂取が乳癌のリスクファクターであることは証明され確立されているが、その発癌経路ははっきり分かっていない。我々は低-中等度のアルコール摂取とホルモン受容体発現による乳癌サブタイプとの関連を調べた。</p> <p>方法： 症例群 585 名と対照群 1,170 名を対象とした病院ベースの症例対照研究を実施した。質問紙法にてアルコール摂取と他の危険因子について調査した。解析にはロジスティック回帰分析を用いた。</p> <p>結果： 年齢や他の交絡因子を調整後の乳癌のオッズ比は、10 年以上飲酒していない女性と比較して、週に 5 回以下の飲酒をする女性で 1.75(95%信頼区間：1.21-2.53)、週に 6 回以上飲酒をする女性では 3.13(95%信頼区間：1.81-5.43)となった。エストロゲン受容体 (Estrogen receptor, ER)陽性乳癌とアルコール摂取との関連は ER 陰性乳癌と比して強く、アルコールカテゴリー1 上昇当たりのオッズ比はそれぞれ 2.05(95%信頼区間：1.49-2.82)、1.29(95%信頼区間：0.85-1.94)(異質性 P=0.07)であった。全対象者では、アルコール摂取と閉経状況の交互作用は認めなかった (異質性 P=0.19)。しかし、ER 陽性乳癌群で検討すると、アルコール摂取と閉経状況の間に乳がんオッズ比の交互作用を認め (異質性 P=0.04)、閉経後においてアルコール摂取と乳癌に有意な関連を認めた。</p> <p>結論： 低-中等度のアルコール摂取は ER 陽性乳癌と関連し、特に閉経後の女性において強い関連を認めた。アルコール摂取は乳癌の調整可能な危険因子であるため、すべての女性へ乳癌とアルコール摂取に関する情報を提供し、アドバイスする必要があると考えられる。</p>		